

平成27年度 東京大学2次試験前期日程(数学問題)150分
理科(一類, 二類, 三類) 数I・II・III・A・B

問題 1 2 3 4 5 6

1 正の実数 a に対して, 座標平面上で次の放物線を考える.

$$C: y = ax^2 + \frac{1 - 4a^2}{4a}$$

a が正の実数全体を動くとき, C の通過する領域を図示せよ.

2 どの目も出る確率が $\frac{1}{6}$ のさいころを1つ用意し, 次のように左から順に文字を書く. さいころを投げ, 出た目が1, 2, 3のときは文字列AAを書き, 4のときは文字Bを, 5のときは文字Cを, 6のときは文字Dを書く. さらに繰り返しさいころを投げ, 同じ規則に従って, AA, B, C, Dをすでにある文字列の右側につなげて書いていく. たとえば, さいころを5回投げ, その出た目が順に2, 5, 6, 3, 4であったとすると, 得られる文字列は

AACDAAB

となる. このとき, 左から4番目の文字はD, 5番目の文字はAである.

- (1) n を正の整数とする. n 回さいころを投げ, 文字列を作るとき, 文字列の左から n 番目の文字がAとなる確率を求めよ.
- (2) n を2以上の整数とする. n 回さいころを投げ, 文字列を作るとき, 文字列の左から $n - 1$ 番目の文字がAで, かつ n 番目の文字がBとなる確率を求めよ.

3 a を正の実数とし, p を正の有理数とする.

座標平面上の2つの曲線 $y = ax^p$ ($x > 0$) と $y = \log x$ ($x > 0$) を考える. この2つの曲線の共有点が1点のみであるとし, その共有点をQとする. 以下の問いに答えよ. 必要であれば, $\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{x^p}{\log x} = \infty$ を証明なしに用いてよい.

- (1) a および点Qの x 座標を p を用いて表せ.
- (2) この2つの曲線と x 軸で囲まれる図形を, x 軸のまわりに1回転してできる立体の体積を p を用いて表せ.
- (3) (2) で得られる立体の体積が 2π になるときの p の値を求めよ.

4 数列 $\{p_n\}$ を次のように定める.

$$p_1 = 1, \quad p_2 = 2, \quad p_{n+2} = \frac{p_{n+1}^2 + 1}{p_n} \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

- (1) $\frac{p_{n+1}^2 + p_n^2 + 1}{p_{n+1}p_n}$ が n によらないことを示せ.
- (2) すべての $n = 2, 3, 4, \dots$ に対し, $p_{n+1} + p_{n-1}$ を p_n のみを使って表せ.
- (3) 数列 $\{q_n\}$ を次のように定める.

$$q_1 = 1, \quad q_2 = 1, \quad q_{n+2} = q_{n+1} + q_n \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

すべての $n = 1, 2, 3, \dots$ に対し, $p_n = q_{2n-1}$ を示せ.

5 m を 2015 以下の正の整数とする. ${}_{2015}C_m$ が偶数となる最小の m を求めよ.

6 n を正の整数とする. 以下の問いに答えよ.

- (1) 関数 $g(x)$ を次のように定める.

$$g(x) = \begin{cases} \frac{\cos(\pi x) + 1}{2} & (|x| \leq 1 \text{ のとき}) \\ 0 & (|x| > 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

$f(x)$ を連続な関数とし, p, q を実数とする. $|x| \leq \frac{1}{n}$ をみたす x に対して $p \leq f(x) \leq q$ が成り立つとき, 次の不等式を示せ.

$$p \leq n \int_{-1}^1 g(nx)f(x) dx \leq q$$

- (2) 関数 $h(x)$ を次のように定める.

$$h(x) = \begin{cases} -\frac{\pi}{2} \sin(\pi x) & (|x| \leq 1 \text{ のとき}) \\ 0 & (|x| > 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

このとき, 次の極限を求めよ.

$$\lim_{n \rightarrow \infty} n^2 \int_{-1}^1 h(nx) \log(1 + e^{x+1}) dx$$

解答例

1 $C : y = ax^2 + \frac{1-4a^2}{4a}$ を a について整理すると $4(x^2-1)a^2 - 4ya + 1 = 0$

$f(a) = 4(x^2-1)a^2 - 4ya + 1$ とおくと

$$f(a) = \begin{cases} 4(x^2-1) \left\{ a - \frac{y}{2(x^2-1)} \right\}^2 + \frac{x^2-y^2-1}{x^2-1} & (x^2 \neq 1) \\ -4ya + 1 & (x^2 = 1) \end{cases}$$

$f(a) = 0$ が正の解 a を持つためには, $f(0) = 1$ に注意して

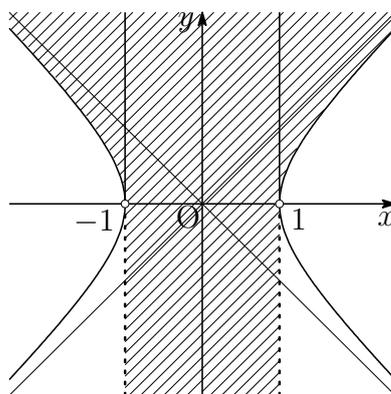
(i) $x^2 - 1 < 0$ ゆえに $|x| < 1$

(ii) $x^2 - 1 > 0$, $\frac{y}{2(x^2-1)} > 0$, $\frac{x^2-y^2-1}{x^2-1} \leq 0$

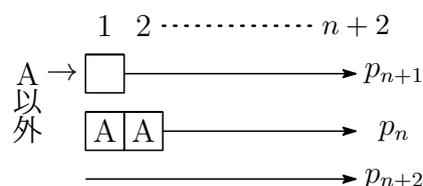
ゆえに $y > 0$, $x^2 - y^2 - 1 \leq 0$ ($|x| > 1$)

(iii) $x^2 - 1 = 0$, $-4y < 0$ ゆえに $y > 0$ ($|x| = 1$)

求める領域は, 下の図の斜線部分. ただし, 点線部の境界は含まない.



- 2 (1) 文字列の左から n 番目の文字が A となる確率を p_n とすると, p_{n+2} は最初に出た目が 4, 5, 6 の場合と 1, 2, 3 の場合により



$$p_{n+2} = \frac{1}{2}p_{n+1} + \frac{1}{2}p_n \quad (n \geq 1) \quad \cdots (*)$$

このとき $p_1 = \frac{1}{2}, p_2 = \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} = \frac{3}{4}$

(*) より $p_{n+2} - p_{n+1} = -\frac{1}{2}(p_{n+1} - p_n),$

$$p_{n+2} + \frac{1}{2}p_{n+1} = p_{n+1} + \frac{1}{2}p_n$$

第 1 式から $p_{n+1} - p_n = (p_2 - p_1) \left(-\frac{1}{2}\right)^{n-1} = \left(-\frac{1}{2}\right)^{n+1}$

第 2 式から $p_{n+1} + \frac{1}{2}p_n = p_2 + \frac{1}{2}p_1 = 1$

上の 2 式から $p_n = \frac{2}{3} \left\{ 1 - \left(-\frac{1}{2}\right)^{n+1} \right\} \quad (n \geq 1)$

- (2) 文字列の左から $n-1$ 番目の文字が A で, かつ n 番目の文字列が B となる確率を q_n とすると, q_{n+2} は, (1) と同様に

$$q_{n+2} = \frac{1}{2}q_{n+1} + \frac{1}{2}q_n \quad (n \geq 2) \quad \cdots (**)$$

このとき $q_2 = 0, q_3 = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{6} = \frac{1}{12}$

(**) より $q_{n+2} - q_{n+1} = -\frac{1}{2}(q_{n+1} - q_n),$

$$q_{n+2} + \frac{1}{2}q_{n+1} = q_{n+1} + \frac{1}{2}q_n$$

第 1 式から $q_{n+1} - q_n = (q_3 - q_2) \left(-\frac{1}{2}\right)^{n-2} = \frac{1}{12} \left(-\frac{1}{2}\right)^{n-2}$

第 2 式から $q_{n+1} + \frac{1}{2}q_n = q_3 + \frac{1}{2}q_2 = \frac{1}{12}$

上の 2 式から $q_n = \frac{1}{18} \left\{ 1 - \left(-\frac{1}{2}\right)^{n-2} \right\} \quad (n \geq 2)$ ■

3 (1) $f(x) = ax^p - \log x$ とおくと ($x > 0$)

$$f'(x) = apx^{p-1} - \frac{1}{x} = \frac{p}{x} \left(ax^p - \frac{1}{p} \right)$$

$$aq^p = \frac{1}{p} \cdots \textcircled{1}, \text{ すなわち, } q = \frac{1}{(ap)^{\frac{1}{p}}} \text{ とおくと, } f'(q) = 0 \text{ より}$$

x	(0)	\cdots	q	\cdots
$f'(x)$		-	0	+
$f(x)$		\searrow	極小	\nearrow

2 曲線 $y = ax^p$ ($x > 0$) と $y = \log x$ ($x > 0$) の共有点が 1 点のみであるとき, $f(q) = 0$ であるから

$$aq^p - \log q = 0 \quad \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ を解いて } \quad \mathbf{q = e^{\frac{1}{p}}, a = \frac{1}{pe}}$$

(2) 求める体積を V とすると

$$\begin{aligned} \frac{V}{\pi} &= \int_0^q (ax^p)^2 dx - \int_1^q (\log x)^2 dx \\ &= a^2 \left[\frac{1}{2p+1} x^{2p+1} \right]_0^q - \left[x \{ (\log x)^2 - 2 \log x + 2 \} \right]_1^q \\ &= \frac{(aq^p)^2 q}{2p+1} - q \{ (\log q)^2 - 2 \log q + 2 \} + 2 \\ &= \frac{q}{(2p+1)p^2} - q \left(\frac{1}{p^2} - \frac{2}{p} + 2 \right) + 2 \\ &= q \left(\frac{1}{p^2} - \frac{2}{p} + \frac{4}{2p+1} \right) - q \left(\frac{1}{p^2} - \frac{2}{p} + 2 \right) + 2 \\ &= \frac{q(2-4p)}{1+2p} + 2 = \frac{e^{\frac{1}{p}}(2-4p)}{1+2p} + 2 \end{aligned}$$

$$\text{よって } \quad \mathbf{V = \pi \left\{ \frac{e^{\frac{1}{p}}(2-4p)}{1+2p} + 2 \right\}}$$

(3) (2) の結果から, $V = 2\pi$ のとき

$$\pi \left\{ \frac{e^{\frac{1}{p}}(2-4p)}{1+2p} + 2 \right\} = 2\pi \quad \text{よって } \quad \mathbf{p = \frac{1}{2}}$$

■

4 (1) $p_{n+2} = \frac{p_{n+1}^2 + 1}{p_n}$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) より

$$\begin{aligned} \frac{p_{n+2}^2 + p_{n+1}^2 + 1}{p_{n+2}p_{n+1}} &= \frac{1}{p_{n+1}} \left(p_{n+2} + \frac{p_{n+1}^2 + 1}{p_{n+2}} \right) \\ &= \frac{1}{p_{n+1}} \left(\frac{p_{n+1}^2 + 1}{p_n} + p_n \right) = \frac{p_{n+1}^2 + p_n^2 + 1}{p_{n+1}p_n} \end{aligned}$$

よって $\frac{p_{n+1}^2 + p_n^2 + 1}{p_{n+1}p_n} = \frac{p_2^2 + p_1^2 + 1}{p_2p_1} = \frac{2^2 + 1^2 + 1}{2 \cdot 1} = \mathbf{3}$

(2) (1)の結果から, $p_{n+1}^2 + p_n^2 + 1 = 3p_{n+1}p_n$ であるから

$$p_{n+1}^2 + 1 = p_n(3p_{n+1} - p_n) \quad \text{ゆえに} \quad \frac{p_{n+1}^2 + 1}{p_n} = 3p_{n+1} - p_n$$

したがって $p_{n+2} = 3p_{n+1} - p_n \cdots \textcircled{1}$ すなわち $p_{n+2} + p_n = 3p_{n+1}$

よって $p_{n+1} + p_{n-1} = \mathbf{3p_n}$

(3) $q_1 = 1, q_2 = 1, q_{n+2} = q_{n+1} + q_n$ であるから, $q_3 = q_2 + q_1 = 2$

$$p_n = q_{2n-1} \quad (n = 1, 2, \dots) \quad \cdots (*)$$

$p_1 = q_1, p_2 = q_3$ より, $n = 1, 2$ のとき, (*) は成立する.

(*) が $n + 1$ 以下の自然数について成立すると仮定すると, $\textcircled{1}$ より

$$\begin{aligned} p_{n+2} &= 3q_{2n+1} - q_{2n-1} \\ &= 2q_{2n+1} + (q_{2n+1} - q_{2n-1}) = 2q_{2n+1} + q_{2n} \\ &= (q_{2n+1} + q_{2n}) + q_{2n+1} = q_{2n+2} + q_{2n+1} = q_{2n+3} \end{aligned}$$

したがって, $n + 2$ のときも, (*) が成立する.

よって, すべての自然数について, (*) が成立する.

補足 漸化式より, $p_3 = 5, p_{n+2}p_n - p_{n+1}^2 = 1$ であるから ($n = 1, 2, \dots$)

$$\begin{aligned} \frac{p_{n+2} + p_n}{p_{n+1}} - \frac{p_{n+1} + p_{n-1}}{p_n} &= \frac{p_n(p_{n+2} + p_n) - p_{n+1}(p_{n+1} + p_{n-1})}{p_{n+1}p_n} \\ &= \frac{(p_{n+2}p_n - p_{n+1}^2) - (p_{n+1}p_{n-1} - p_n^2)}{p_{n+1}p_n} = 0 \end{aligned}$$

したがって $\frac{p_{n+2} + p_n}{p_{n+1}} = \frac{p_3 + p_1}{p_2} = \frac{5 + 1}{2} = 3$

ここで, $\alpha = \frac{1 + \sqrt{5}}{2}, \beta = \frac{1 - \sqrt{5}}{2}$ とおくと

$$p_{n+2} - (\alpha^2 + \beta^2)p_{n+1} + \alpha^2\beta^2p_n = 0, \quad q_{n+2} - (\alpha + \beta)q_{n+1} + \alpha\beta q_n = 0$$

よって $p_n = \frac{\alpha^{2n-1} - \beta^{2n-1}}{\alpha^2 - \beta^2} = \frac{\alpha^{2n-1} - \beta^{2n-1}}{\alpha - \beta}, \quad q_n = \frac{\alpha^n - \beta^n}{\alpha - \beta}$ ■

5 正の整数 k に対し, $k = l_k \cdot 2^{n_k}$ (l_k は奇数, n_k は 0 以上の整数) とすると

$${}_{2015}C_m = \prod_{k=1}^m \frac{2016 - k}{k} = \prod_{k=1}^m \frac{63 \cdot 2^5 - l_k \cdot 2^{n_k}}{l_k \cdot 2^{n_k}} = \prod_{k=1}^m \frac{63 \cdot 2^{5-n_k} - l_k}{l_k}$$

$1 \leq k < 2^5$ のとき, $0 \leq n_k < 5$ であるから, $63 \cdot 2^{5-n_k} - l_k$ は奇数.

したがって, $1 \leq m < 32$ のとき, ${}_{2015}C_m$ は奇数. 次に

$${}_{2015}C_{32} = \frac{63 \cdot 2^5 - 2^5}{2^5} \times {}_{2015}C_{31} = 2 \cdot 31 \times {}_{2015}C_{31}$$

は, 偶数である. よって, 求める最小の正の整数 m は **32**

東京大学 1999 年前期 理科

(1) k を自然数とする. m を $m = 2^k$ とおくと, $0 < n < m$ を満たすすべての整数 n について, 二項係数 ${}_m C_n$ は偶数であることを示せ.

(2) 以下の条件を満たす自然数 m をすべて求めよ.

条件: $0 \leq n \leq m$ を満たすすべての整数 n について二項係数 ${}_m C_n$ は奇数である.

解答 (1)
$${}_m C_n = \frac{m \times {}_{m-1} C_{n-1}}{n} = \frac{2^k \times {}_{m-1} C_{n-1}}{n}$$

$m = 2^k$, $0 < n < m$ であるから, n が 2^{k-1} を因数にもつことがあっても 2^k を因数にもつことはないので, 二項係数 ${}_m C_n$ は偶数である.

(2) ${}_{m-1} C_0 = 1$ および (1) の結果を ${}_{m-1} C_j = {}_m C_j - {}_{m-1} C_{j-1}$ に適用すると, ${}_{m-1} C_j$ ($0 \leq j \leq m-1$) は奇数.

${}_{2^{k+1}} C_j = {}_{2^k} C_{j-1} + {}_{2^k} C_j$ であるから, (1) の結果により

$$j = 2, 3, \dots, 2^k - 1 \text{ のとき } {}_{2^{k+1}} C_j \text{ は偶数}$$

${}_{2^{k+2}} C_j = {}_{2^{k+1}} C_{j-1} + {}_{2^{k+1}} C_j$ であるから, 上の結果により

$$j = 3, 4, \dots, 2^k - 1 \text{ のとき } {}_{2^{k+2}} C_j \text{ は偶数}$$

順次繰り返すことにより, $i = 0, 1, \dots, 2^k - 2$ に対して

$$i + 1 \leq j \leq 2^k - 1 \text{ のとき } {}_{2^{k+i}} C_j \text{ は偶数}$$

よって $m = 2^k - 1$ (k は自然数)

別解 整数を係数とする多項式を，偶数の係数を0に置き換え，奇数の係数を1に置き換える．2つの整式がこの置き換えによって，等しくなるとき，この2つの整式は合同 (\equiv) とする．例えば， k を正の整数とすると

$$(1+x)^{2^k} \equiv 1+x^{2^k},$$

$$(1+x)^{2^k-1} \equiv 1+x+x^2+\cdots+x^{2^k-1}$$

2015 = 1024 + 512 + 256 + 128 + 64 + 16 + 8 + 4 + 2 + 1 であるから

$$(1+x)^{2015} = (1+x)^{1024}(1+x)^{512}(1+x)^{256}(1+x)^{128}(1+x)^{64}$$

$$\times (1+x)^{16}(1+x)^8(1+x)^4(1+x)^2(1+x)$$

$$\sum_{m=0}^{2015} {}_{2015}C_m x^m \equiv (1+x^{1024})(1+x^{512})(1+x^{256})(1+x^{128})(1+x^{64})$$

$$\times (1+x^{16})(1+x^8)(1+x^4)(1+x^2)(1+x)$$

右辺の係数が0になる最も次数の低い項は x^{32} よって 32 ■

$$\boxed{6} \quad (1) \quad g(x) = \begin{cases} \frac{\cos(\pi x) + 1}{2} & (|x| \leq 1 \text{ のとき}) \\ 0 & (|x| > 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

$$\text{これより } g(nx) = \begin{cases} \frac{\cos(\pi nx) + 1}{2} & (|x| \leq \frac{1}{n} \text{ のとき}) \\ 0 & (|x| > \frac{1}{n} \text{ のとき}) \end{cases}$$

$$\text{したがって } n \int_{-1}^1 g(nx)f(x) dx = n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx)f(x) dx \quad \cdots (*)$$

$|x| \leq \frac{1}{n}$ のとき， $p \leq f(x) \leq q$ ， $g(nx) \geq 0$ に注意して

$$np \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx) dx \leq n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx)f(x) dx \leq nq \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx) dx$$

$$\text{ここで } n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx) dx = \int_{-1}^1 g(t) dt = \left[\frac{1}{2\pi} \sin(\pi t) + \frac{t}{2} \right]_{-1}^1 = 1$$

$$\text{上の諸式により } p \leq n \int_{-1}^1 g(nx)f(x) dx \leq q$$

$$(2) \quad h(x) = \begin{cases} -\frac{\pi}{2} \sin(\pi x) & (|x| \leq 1 \text{ のとき}) \\ 0 & (|x| > 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

$$\text{これより } h(nx) = \begin{cases} -\frac{\pi}{2} \sin(\pi nx) & (|x| \leq \frac{1}{n} \text{ のとき}) \\ 0 & (|x| > \frac{1}{n} \text{ のとき}) \end{cases}$$

$$\text{したがって } n^2 \int_{-1}^1 h(nx) \log(1 + e^{x+1}) dx = n^2 \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} h(nx) \log(1 + e^{x+1}) dx$$

$g'(x) = h(x)$ であるから

$$\begin{aligned} & n^2 \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} h(nx) \log(1 + e^{x+1}) dx \\ &= n^2 \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g'(nx) \log(1 + e^{x+1}) dx = n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} \{g(nx)\}' \log(1 + e^{x+1}) dx \\ &= n \left[g(nx) \log(1 + e^{x+1}) \right]_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} - n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx) \cdot \frac{e^{x+1}}{1 + e^{x+1}} dx \\ &= -n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx) \cdot \frac{e^{x+1}}{1 + e^{x+1}} dx \end{aligned}$$

ここで、 $f(x) = \frac{e^{x+1}}{1 + e^{x+1}} = 1 - \frac{1}{1 + e^{x+1}}$ ($-\frac{1}{n} \leq x \leq \frac{1}{n}$) とおくと、 $f(x)$ は単調増加であるから

$$f\left(-\frac{1}{n}\right) \leq f(x) \leq f\left(\frac{1}{n}\right) \quad \text{すなわち} \quad \frac{e^{-\frac{1}{n}+1}}{1 + e^{-\frac{1}{n}+1}} \leq f(x) \leq \frac{e^{\frac{1}{n}+1}}{1 + e^{\frac{1}{n}+1}}$$

(*) および (1) の結果にこれを適用すると

$$\frac{e^{-\frac{1}{n}+1}}{1 + e^{-\frac{1}{n}+1}} \leq n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx) f(x) dx \leq \frac{e^{\frac{1}{n}+1}}{1 + e^{\frac{1}{n}+1}}$$

$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{e^{-\frac{1}{n}+1}}{1 + e^{-\frac{1}{n}+1}} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{e^{\frac{1}{n}+1}}{1 + e^{\frac{1}{n}+1}} = e$ から、はさみうちの原理により

$$\lim_{n \rightarrow \infty} n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx) f(x) dx = \frac{e}{1 + e}$$

$$\begin{aligned} \text{よって} \quad & \lim_{n \rightarrow \infty} n^2 \int_{-1}^1 h(nx) \log(1 + e^{x+1}) dx \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \left\{ -n \int_{-\frac{1}{n}}^{\frac{1}{n}} g(nx) f(x) dx \right\} = -\frac{e}{1 + e} \end{aligned}$$

■